

《どうでもいい話、その 513》

どうでもよくない皆様へ

こんにちは！

学校の夏休みも終わり、ボランティアで行っている小学校で、久しぶりに元気な子供たちに会いました。6年生の教室へ行くと休み時間にもかかわらず、自習している子がいます。この学校では、毎年5人に一人位は私立中学へ進学するので、受験勉強をしているのでしょう。私の12歳のころは、毎日毎日ボーッと過ごしていました。とにかくボーッとすればよいのであって、周りのだれもがボーッとしていました。現代の子は、12歳で第一回目の人生決定戦が行われる訳ですから、必死でボーッとなどしてられません。我々が西も東も分からずに、トンボやセミを追っかけていた時期に、現代の12歳の人生が決まってしまうのです。「トンボ」か「人生」か、といわれれば、だれしも「人生」を選ぶでしょう。我々といえども「人生」を選んだはずです。ただ当時は、トンボやセミが身近にたくさんいて、人生は、はるか遠くにかすんでいました。ところで、教室で休み時間に勉強している6年生の女の子に「ねえ、勉強ばかりしていないで、マジック見てくれる？」と声をかけたところ「勉強のジャマしないでね。大人げないでしょ！」と諭されました。この子も人生のことを考えています。

岩波より